

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



「風薫る五月」になりました。まだチョッピリ肌寒い朝もありますが、天候もこれからどんどん上向きになるでしょう。J-DAVID試験も上り調子！ 事務局一同、さわやかに頑張りま〜す。

世話人からのメッセージ

「透析患者の予後改善のために」

医療法人 川島会 川島病院 院長
水口 潤 先生

日本の透析医学・医療はこの40年間で著しい発展を遂げ、その治療成績は国際的にみても最高のレベルに達しているといえる。しかしその生命予後は癌患者に及ばない状況にあり、腎不全医療に携わる我々にとって解決すべき課題は多岐にわたる。

最近の臨床研究の成果より、腎機能の低下はCVDの発症、冠動脈疾患、心筋梗塞、心不全、脳血管障害、CVDによる死亡、入院などのリスクを高めることが明らかとなった。しかし慢性腎不全患者に対する現在の血液浄化療法は、質的にも量的にも健常な腎機能には遠く及ばず、常にこれらの危険にさらされている状況にあると考えられる。したがって慢性腎不全患者の予後改善のためには、よりよい血液浄化療法を開発・提供することが基本である。40年間にわたる血液浄化を振り返り、透析医療において重要であると思われる尿毒素除去、血液浄化のキネティックとホメオスターシス、膜の生体適合性、透析液、筋肉異栄養症、

動脈硬化、老化などの実態を整理し問題点を明確にすることにより、今後解決すべき課題と治療戦略の方向性が示され、その目的が達成されていくものと考えている。

一方、現在の血液浄化療法の不完全さに起因する高血圧、貧血、P・Ca代謝異常、動脈硬化、栄養障害、脂質代謝異常、アミロイドーシスなどの合併症に対する治療も透析患者の予後改善には必須である。P・Ca代謝異常においては、透析液Ca濃度と水酸化アルミニウムゲルによる治療に依存していたなか、活性型ビタミンD剤の登場は画期的な出来事であったが、その作用に関しては骨代謝への関心が主体であった。近年CKD-MBDの概念の普及により、骨だけではなく、血管石灰化を含む、生命予後に影響を及ぼす全身疾患としてとらえられるようになった。

今回のJ-DAVID試験において、透析患者にとって「ビタミンDが長寿ホルモン」であることが検証され、透析患者の予後改善に役立つことを期待したい。



最近の文献から

ビタミンB群投与と末期腎臓病の総死亡・心血管疾患リスクをみたRCT

B vitamins and the risk of total mortality and cardiovascular disease in end-stage renal disease: results of a randomized controlled trial

Heinz J, et al. Circulation 131: 1432-1438, 2010

【ポイント】透析患者650症例を対象に、ビタミンB6、B12、葉酸投与（2年）の効果を、プラセボ対照のRCTで検討した。総死亡、CVDイベントともに、有意な抑制効果は認められなかった。

詳しくは <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20231532?dopt=Citation>

最新進捗状況

累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(4月21日現在)

各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	76	4
山形	3	6	0
宮城	5	2	0
東京	29	45	7
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	2	2
神奈川	2	12	0
愛知	17	7	0
大阪	49	211	6
奈良・和歌山	12	38	0
京都	4	64	0
広島	5	18	0
島根	8	5	0
徳島	2	5	0
高知	3	10	5
愛媛	1	18	0
福岡・佐賀	11	5	0
沖縄	6	4	0
合計	182	528	24

累計登録数ランキングTOP10

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	55
②	桃仁会病院／京都	47
③	北彩都病院／北海道	28
④	翠悠会診療所／奈良・和歌山	27
⑤	永山クリニック／大阪	25
⑥	札幌北楡病院／北海道	20
⑦	佐藤循環器科内科／愛媛	18
⑧	大野記念病院／大阪	15
⑨	小野内科／大阪	14
⑩	大町土屋クリニック／広島	14

4月度登録数ランキングTOP5

順位	施設名	登録件数
①	高知高須病院／高知	5
①	小野山診療所／大阪	5
③	札幌北楡病院／北海道	3
③	平成日高クリニック／東京	3
⑤	長居クリニック／大阪	2
⑤	腎内科クリニック世田谷／東京	2
⑤	吉祥寺あさひ病院／東京	2
⑤	なめがた地域総合病院／茨木・千葉	2

クエリー回収状況報告

	観察開始時	3ヵ月	6ヵ月	12ヵ月
発行件数	373	140	60	13
回答受領件数	296	101	39	11

症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3ヵ月	6ヵ月	12ヵ月
528	397	206	139	63

J-DAVID事務局からお知らせ



症例登録期間の延長について

現在の試験計画書(Ver.1.3)では、症例登録期間を2010年6月30日としています。試験計画書を改訂し、2010年12月28日まで延長いたします。現在プロトコル改訂作業を進めていますので、引き続き症例のご登録をよろしくお願いいたします。

服薬コンプライアンス調査票について

被験者の割付群が投与群・非投与群に関わらず、調査票には服薬状況をご記入の上、提出して頂きますようよろしくお願いいたします。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
データセンター
電話・FAX 06-6646-3105

ホームページもご覧ください。
<http://j-david.info/>